

- 3 次の表の第1欄に掲げる学校を卒業した後、さらに職業能力開発促進法の規定による職業能力開発校、職業能力開発促進センター、障害者職業能力開発校又は認定職業訓練において、修業年限が第2欄に掲げる年数以上で、第3欄に掲げる科目を修めて卒業した後、同欄に掲げる科目の区分に応じ、それぞれ同表の第4欄に定める年数以上の建築実務の経験を有する者

第1欄	第2欄	第3欄	第4欄
学校教育法の規定による高等学校若しくは中等教育学校又は旧中等学校令の規定による中等学校	3年	令和元年国土交通省告示第749号第1に定める科目(同第1中「40単位」とあるのは「30単位」と読み替えるものとする。)	1年
	1年	令和元年国土交通省告示第750号第1に定める科目	2年
学校教育法の規定による中学校又は義務教育学校	3年	令和元年国土交通省告示第750号第1に定める科目	2年
	2年	令和元年国土交通省告示第750号第1に定める科目(同第1中「20単位」とあるのは「15単位」と読み替えるものとする。)	3年
	1年	令和元年国土交通省告示第750号第1に定める科目(同第1中「20単位」とあるのは「10単位」と読み替えるものとする。)	4年

(注) 第3欄に掲げる科目の単位の計算方法は、専修学校設置基準の規定の趣旨に準じて行うものとする。

- 4 建築士法等の一部を改正する法律(平成18年法律第114号)の施行の日(以下「平成18年改正法施行日」という。)前に昭和47年長野県告示第260号(以下「旧告示」という。)第1号から第10号までに掲げる課程を修めて卒業し、建築に関する実務の経験をこれらの課程に応じ、それぞれ旧告示第1号から第10号までに定める年数に満たない年数しか有しない者で、平成18年改正法施行日以後に平成18年改正法施行日前の建築に関する実務の経験年数と平成18年改正法施行日以後の建築実務の経験年数を合わせてこれらの課程に応じ、それぞれ旧告示第1号から第10号までに定める年数以上有することとなる者
- 5 平成18年改正法施行日前から引き続き旧告示第1号から第6号まで又は第8号に掲げる課程に在学する者で、平成18年改正法施行日以後にこれらの課程を修めて卒業した後、これらの課程の種類に応じ、それぞれ旧告示第1号から第6号まで又は第8号に定める年数以上の建築実務の経験を有することとなる者
- 6 建築士法第2条第5項に規定する建築設備士
- 7 1から6までに定める者のほか知事が建築士法第4条第4項第1号及び第2号に掲げる者と同等以上の知識及び技能を有すると認める者

附 則

この告示は、令和2年3月1日から施行する。

建築住宅課

長野県告示第75号

建築士法(昭和25年法律第202号)第15条第2号に規定する同条第1号に掲げる者と同等以上の知識及び技能を有すると認める者を、次のとおり定めます。

令和2年2月27日

長野県知事 阿 部 守 一

- 1 次の表の第1欄に掲げる学校において、第2欄に掲げる科目を修めて卒業した後、同欄に掲げる科目の区分に応じ、それぞれ同表の第3欄に定める年数以上の建築実務(建築士法第4条第2項第1号に規定する建築実務をいう。以下同じ。)の経験を有する者

第1欄	第2欄	第3欄
防衛省設置法(昭和29年法律第164号)の規定による防衛大学校、職業能力開発促進法(昭和44年法律第64号)の規定による職業能力開発総合大学校、職業能力開発大学校又は職業能力開発短期大学校	令和元年国土交通省告示第753号第1に定める科目	0年
学校教育法(昭和22年法律第26号)の規定による高等学校又は中等教育学校	令和元年国土交通省告示第753号第1に定める科目(同第1中「20単位」とあるのは「15単位」と読み替えるものとする。)	1年

(注) 第2欄に掲げる科目の単位の計算方法は、防衛省設置法の規定による防衛大学校、職業能力開発促進法の規定による職業能力開発総合大学校又は職業能力開発大学校にあっては大学設置基準（昭和31年文部省令第28号）の規定の趣旨に準じて行うものとし、同法の規定による職業能力開発短期大学校にあっては短期大学設置基準（昭和50年文部省令第21号）の規定の趣旨に準じて行うものとし、学校教育法の規定による高等学校又は中等教育学校にあっては高等学校学習指導要領（平成21年文部科学省告示第34号）の規定の例によるものとする。

2 次の表の第1欄に掲げる学校を卒業したことを入学資格とする学校教育法の規定による専修学校又は各種学校において、修業年限が第2欄に掲げる年数以上で、第3欄に掲げる科目を修めて卒業した後、同欄に掲げる科目の区分に応じ、それぞれ同表の第4欄に定める年数以上の建築実務の経験を有する者

第1欄	第2欄	第3欄	第4欄
学校教育法の規定による高等学校若しくは中等教育学校又は旧中等学校令（昭和18年勅令第36号）の規定による中等学校	1年	令和元年国土交通省告示第753号第1に定める科目	0年
学校教育法の規定による中学校又は義務教育学校	2年	令和元年国土交通省告示第753号第1に定める科目（同第1中「20単位」とあるのは「15単位」と読み替えるものとする。）	1年
	1年	令和元年国土交通省告示第753号第1に定める科目（同第1中「20単位」とあるのは「10単位」と読み替えるものとする。）	2年

(注) 第3欄に掲げる科目の単位の計算方法は、学校教育法の規定による専修学校にあっては専修学校設置基準（昭和51年文部省令第2号）の規定の例によるものとし、同法の規定による各種学校にあっては専修学校設置基準の規定の趣旨に準じて行うものとする。

3 次の表の第1欄に掲げる学校を卒業した後、さらに職業能力開発促進法の規定による職業能力開発校、職業能力開発促進センター、障害者職業能力開発校又は認定職業訓練において、修業年限が第2欄に掲げる年数以上で、第3欄に掲げる科目を修めて卒業した後、同欄に掲げる科目の区分に応じ、それぞれ同表の第4欄に定める年数以上の建築実務の経験を有する者

第1欄	第2欄	第3欄	第4欄
学校教育法の規定による高等学校若しくは中等教育学校又は旧中等学校令の規定による中等学校	1年	令和元年国土交通省告示第753号第1に定める科目	0年
学校教育法の規定による中学校又は義務教育学校	3年	令和元年国土交通省告示第753号第1に定める科目	0年
	2年	令和元年国土交通省告示第753号第1に定める科目（同第1中「20単位」とあるのは「15単位」と読み替えるものとする。）	1年
	1年	令和元年国土交通省告示第753号第1に定める科目（同第1中「20単位」とあるのは「10単位」と読み替えるものとする。）	2年

(注) 第3欄に掲げる科目の単位の計算方法は、専修学校設置基準の規定の趣旨に準じて行うものとする。

4 建築士法等の一部を改正する法律（平成18年法律第114号）の施行の日前に昭和47年長野県告示第260号第1号から第10号までに掲げる課程に在学した者であって、当該課程を修めて卒業したもの

5 建築士法第2条第5項に規定する建築設備士

6 1から5までに定める者のほか知事が建築士法第15条第1号に掲げる者と同等以上の知識及び技能を有すると認める者

附 則

1 この告示は、令和2年3月1日から施行する。

2 平成20年長野県告示第533号は、廃止する。